

調査4 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

- 民間の設備投資、研究開発の縮小。(製造業)
- 印刷はネットで安いサービスが多くあり、デザイン・制作など自分で作る人が多くなった。(製造業)
- 全体的な景気低迷。(製造業)
- 小規模造園工事の減少。(建設業)
- トンネル崩落事故による建物の修繕需要の増加および消費税増税による駆け込み需要。(建設業)
- 9月までは良好だったが、10月以降は既存店のうち数店舗が前年比3~5%ダウンだった。(建設業)
- 景気動向より自社の特異性の確保が重要(建設業)
- デフレによると思われる。(建設業)
- 個人消費の減少。(不動産業)
- 人口減少と心理的な側面が大きいと思う。(不動産業)
- 近隣商店の人出が少なくなったようだ。(サービス業)
- 従業員が辞めず、成長している分業績が伸びている。アベノミクスで期待感がある分良くなると思う。(サービス業)
- 企業団体からの政治献金制度、一票の格差大の小選挙区選挙制度疲労。官僚主導の大借金政治を改め、国民の声が公平に反映できる選挙制度確立・実現し、不平等をなくすことが必要。(サービス業)
- 小売りの減少。(サービス業)
- オタクコンテンツ無料化の流れの中、売り上げをどう立てるか、業界の課題。(サービス業)
- 製造業者が海外移転のケースが多いのが悪循環。(サービス業)
- 政治への期待感。(サービス業)
- 外資系の参入。契約の見直し、金額減少など。(サービス業)
- 世界の景気停滞のなか、企業の新規設備投資の低下により修理ニーズが高まっている。(サービス業)
- イベントにお金をかけなくなってきている(サービス業)
- 少子高齢化と人口減少。(サービス業)
- 建設業の長引く不況で高齢者以外、新規技術者の育成をしていない。(サービス業)
- テーレントリーの仕事が海外に流出している。(サービス業)
- 世界の景気が日本の景気に影響を与えている。(サービス業)
- ブランド製品の受注増加(卸売業)
- 客数は増加しているが、単価が低く、仕入単価が上昇している。(飲食業)
- 在籍しているショッピングセンター全体の課題多い。(飲食業)
- 近隣団地の建て替え工事が影響している。(飲食業)
- 経済の悪化(飲食業)
- 政治の不安定(飲食業)
- 情報が暗いニュースばかりで明るいニュースがない。(飲食業)

- 各種コストの上昇及び最終消費者の買い控え。(飲食業)
- 大手飲食店の低価格が影響している。(飲食業)
- 単価の高いものにお金をつかわない。(飲食業)
- 本の電子化、スマートホンの普及。(小売業)
- 価格低下により競争が激化している。(小売業)
- デフレ、円高、株安、雇用不安、失業、世界的経済不安など。(小売業)
- 高い提案力に省エネ・節電対策機器の販売を中心に売上は伸びている。一方、業界の特性として下期に受注が集中するため、繁忙期の人員配置や労働時間の改善が求められる。(小売業)
- 周辺地域の購買意欲の減少(少子高齢化・人口減少)、立川・八王子など周辺商業地域への流出。(小売業)
- 売上は下降、経費は上昇で利益は圧縮されている。経費節減限界。(小売業)
- 一般の方があまり消費しない。(小売業)
- 景気の振幅が大きい。(小売業)
- 製造メーカーの販売不振。主に中国、アジア向け製品の減少。(運輸業)
- 物価が下がりすぎている。本当の適正価格でないと物流業は厳しい。(運輸業)
- ガソリンの値上げ。(運輸業)